

9. メタファー (0) メタファー一般

- (1) この気持ち冷めてしまう前に… 「Milk」 aiko
- (2) 翼はあるのに 飛べずにいるんだ ひとりになるのが 恐くて つらくて 「YELL」いきものがかり
- (3) 周りを気にして 踏み出せないのは 大人になったからか 「黄金魂」 湘南乃風
- (4) 知らぬ間に築いてた 自分らしさの檻の中で もがいているなら 「名もなき詩」 Mr. Children
- (5) 喧嘩もした傷の数すらも欠かせない ピースの1つ ジグソーパズル「春夏秋冬」 ヒルクライム
- (6) 悲しみは波のように 何度も繰り返すらしい 「風なぎ」スガシカオ
- (7) どこまでも続く道じゃない だったら他を選べばいいのに 「Addicted To You」 宇多田ヒカル

(8)うつむきがちな聡子へ落とす自分の視線が、熱烈な注視になりがちなことを怖れていた。もちろん心はそのような注視をのぞんでいる。しかし清頭が怖れているのは、聡子の脆い白さを、過激な日光で焼いてしまうことである。(『春の雪』)

(9) 最初はほんの小さな手違いだったのだが、それが彼女の頭の中で少しずつ大きくなり、やがてとりかえしのつかない巨大な混乱へと姿を変えた。そのあいだじゅう彼女は一言も口をきかずに、その場にじっとたちすくんでいた。彼女の姿は僕に、夜の海にゆっくりと沈んでいく船を思わせた。(『中国行きのスロウ・ボート』)

(10) 動きの鈍いくせにいつのまにか周辺を縦横に這いずり回ってその銀色にぬめる痕跡を誇る^{なめくじ} 蛞蝓が僕を畏にかけようとしているかのようなあざとさがある。僕は戦況を好転させようとあがきながらも、戦いの方法がわからず、結局乳児化して女の唾液を必死に吸った。(『ゲルマニウムの夜』)

参考文献

鍋島弘治朗(2011)『日本語のメタファー』くろしお出版

鍋島弘治朗(2016)『メタファーと身体性』ひつじ書房

Lakoff, G. and M. Johnson. (2003[1980]) *Metaphors we live by*. Chicago: University of Chicago Press. (レイコフ・G. ジョンソン・M. 渡部昇一・楠瀬淳三・下谷和幸訳(1986)『レトリックと人生』大修館書店)

楠見 孝(1995)『比喩の処理過程と意味構造』風間書房

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~sugimoto/MasterMetaphorList/MetaphorHome.html> (メタファーリスト)